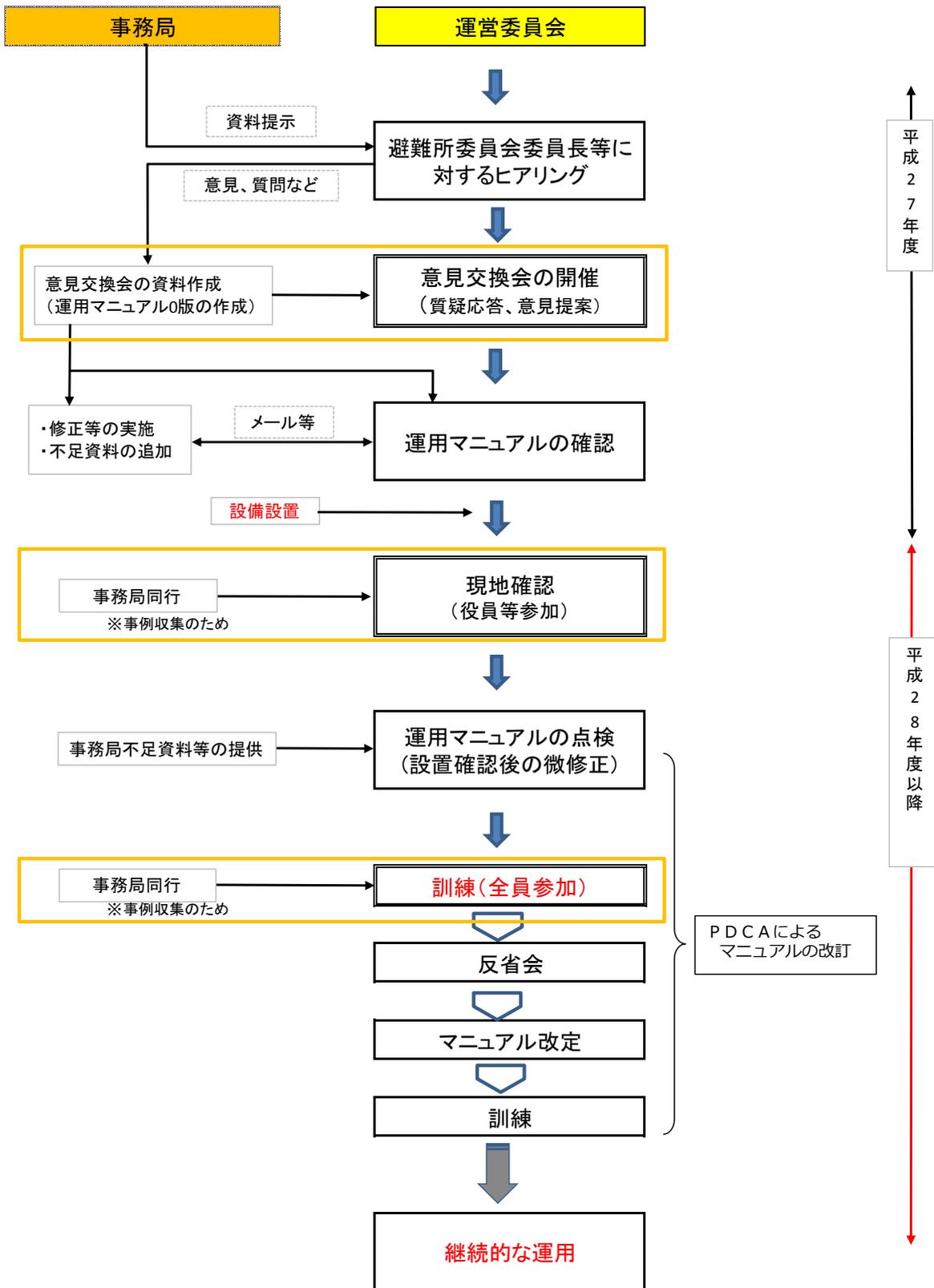


# 避難所運営委員会との協議進捗状況

## 1. 検討フロー



: 事務局現場関与部分

## 2. 避難所運営委員会と連携の考え方の整理

### (1)意見交換会の目的

意見交換会の最終的な目的は太陽光発電・蓄電システムの運用マニュアルを作成することにある。(本事業の最終目標は、事務局の作成するマニュアル0版を基に、各運営委員会が独自に考え、訓練を行い、マニュアルの熟度を高めていってもらうことにある。)

### (2)意見交換会までの検討の流れ

#### 事務局内での検討・情報整理

⇒委員長等へのヒアリング

⇒意見交換会資料の検討・作成

(各運営委員会に合わせたマニュアル0版含む)

⇒避難所運営委員会による意見交換会の開催

### (3)課題等の整理

#### ・意見交換会を効果的に開催するための課題

⇒意見交換会の進行方法が不明確(説明用資料も確定されていない)

⇒現行の避難所運営マニュアルに本システムの運用方法をどのように組み込むか難しい。

⇒現行避難所運営委員会の活動状況について、事務局の認識不足

(そこで)



#### ・先行している委員会へのヒアリングの実施

⇒会議の方法、停電時の電気活用の考え方をヒアリング(一部、実施済み)

⇒先行的な委員会で活用できる資料を作成(先行タイプ版の作成)

⇒⇒⇒ 先行タイプが作成された後、他の後発避難所へも広く展開

### (4)意見交換会等運営方法(案)

・事前の各委員長等へのヒアリングを踏まえて、意見交換会資料を作成する。

(避難所運営員との協議を踏まえて作成中⇒「参考資料1」参照)

・これらの資料を基に、避難所運営委員会にて「災害時の操作方法や運用方法の注意点」を意見交換(「(5)協議事項の全体像」参照)。

・具体的には、マニュアル0版に対して、中身の足し引き等を行うための意見を求める。

⇒これらの意見を基に、マニュアル0版を事務局が修正を加え、避難所運営委員会へ提供。徐々に完成度を高めていくことで、効果的かつ効率的な展開を進めて行く。

#### <意見交換会資料案(参考資料1参照)>

・資料0(次第)

・資料1(事業の主旨)

・資料2(委員会の検討の流れ)

- ・資料3 (システムの前提条件)
- ・資料4 (設備の状況 (配電図))
- ・資料5 (コンセントの位置等)
- ・資料6 (蓄電池システムの考え方及び使用機器の消費電力)
- ・資料7 (各天候時の発電、蓄電の様子等)
- ・資料8 (マニュアル検討表)
- ・資料9 (太陽光発電・蓄電池システムの運用マニュアル0版 (案))

設備の説明

運用面の説明

(5)協議事項の全体像 (意見抽出のポイント)

避難所運営委員会の流れ (大工程)		太陽光発電・蓄電池システム運用マニュアルへの基本的な記載内容	意見交換会で検討すべき事項 (どのような資料を作成すべきか)
①	参集と施設の安全点検	・集合メンバー確認	・参集確認方法 ・集合する想定メンバー
		・避難所機能の確認	・誰が何を行うのか ・避難所運営委員会マニュアル様式6の問題点
②	避難所開設準備	・蓄電池切替システムのマニュアルの存在確認	・どこに置いておくか ※他のマニュアルはどこに置いてあるか
③	避難所開設、避難者の誘導・受付	・避難所運営マニュアルに従って作業	・この時点で、本システムの担当者となりえる人材の把握ができないか(名簿に避難者の特徴を記載する欄を設けるなど)
④	避難所運営委員会議の開催	・①～③で確認したことを踏まえ、今後に向けて蓄電池利用に向けての協議	・役割分担 ※注意事項 複数の担当者制 既存のマニュアルとの整合
⑤	避難者への物資の配給、情報提供等	・蓄電池の位置の確認	・誰が確認するか
		・体育館及び校舎内の使えるコンセントの確認	・誰が確認するか
		・蓄電残量の確認 ・蓄電池切替 ・体育館分電盤の切替	・具体的マニュアルの中身 ※使いやすいマニュアルとは？ 訓練を想定した検討
		・避難者への電気の使い方の伝達	・有用な伝達方法 ・必要資料は？ ・忌避事項(重要事項)
⑥	利用開始	直後	・適正な電気使用をしているかの確認 ・蓄電量の確認 ・各担当者での協議
		夕方	・夜間～翌日以降の天候を考慮した、電気の使い方の発表 ・電気の使い方、蓄電量の確認
	翌日の朝方(2日目)以降	・今後の天候を考慮した、電気の使い方の発表 ・適正な電気使用をしているかの確認 ・蓄電量の確認	・使用設備の利用状況確認の方法 ・夜間の電気利用方法 ・想定協議内容 ・避難者への情報伝達方法(担当) ・避難者への対応の留意点  ・その他、想定される課題
		・以後、電源が配置されるまで⑥の繰り返し	
		・以後、電源が配置されるまで⑥の繰り返し	
	⑦	長期避難生活への対応	・以後、電源が配置されるまで⑥の繰り返し

### 3. 第1回外部専門委員会以降の検討の流れ

- ①意見交換会(ワークショップ)のフレームワークの検討(7月~8月)
- ②委員長ヒアリング内容及び資料の検討(9月)
- ③先行委員会委員長等へのヒアリング(9月~10月)
- ④最終的な意見交換会開催のための資料等の検討(11月)
- ⑤各委員会への意見交換会開催へのスケジュール調整(12月)
- ⑥意見交換会の実施(1月~3月)
- ⑦訓練及びマニュアルの改定(平成28年度)

### 4. 避難所運営委員会委員長との協議概要

避難所運営委員会の委員長等(主要メンバー)との協議結果(指摘事項)の概要

- ・ワークショップという表現は再検討すること。
- ・使用する住民同士で意見を出し合い、使用方法について意識をすり合わせる事が重要。
- ・説明は資料も含めて簡単なものとする事。
- ・一気に実効性のあるマニュアルを完成させることは無理なので、徐々に中身を充実させていく工夫が必要。
- ・避難所として検討が必要な内容としては次の2点、①最低限使用したい機器の選定、②好天時に接続する機器の優先順位⇒余剰電力の有効活用。
- ・意見交換会の内容は「使い方・切替え方」と「運用管理(電気の使い方)」の2つのポイントに絞った方が良い。
- ・マニュアルには具体的な内容を載せてもらいたい(蓄電池残量は装置のどこを見たら良いか等)。
- ・太陽電池の発電量は季節や天気によって左右されるため、試算条件の設定が難しい。